

株式会社水谷

貼箱サイズ2分の1を実現する設備を導入 国内展開するスイス、ベルギーの高級チョコで採用



■ デザイン性の高い小型貼箱を提供



■ 主力のトムソン箱の設計・制作を手がける



■ 貼紙に塗布する糊にもノウハウが詰まっている



「責任ある仕事で貢献したい」と水谷豊社長

data : みすたに

代表者役職名・氏名／代表取締役・水谷豊
設立年月日／平成5年10月1日
住 所／〒494-0011 一宮市西萩原若宮北29-2
電 話／0586-68-0566
F A X／0586-69-0533
E-Mail／y-mizutani@watervalley.co.jp
資 本 金／1000万円
業 種／紙器製造・販売
従業員数／48人



■ 小型貼箱の量産を実現した専用機

自分向けギフトボックス

水谷は食品用紙器の製造、販売を手がける。主力は和・洋菓子向けギフトボックス。顧客が製造する菓子のサイズや形状に合わせて箱の構造や仕切りなどをデザイン、設計、製造している。15年ほど前、祖業の「貼箱(はりばこ)」製品の強化に着手した。当時は細々と継続していた製品だったが、若手デザイナーが貼箱に注目。さまざまな製品で使われるようになり、現在は売上高の20%を占める主要製品となっている。

同社が製造する貼箱の主要顧客は、スイスやベルギーといった海外

の大手チョコレートメーカー。品質、納期が高く評価され、都市部の路面店や百貨店などで販売する国内向け商品用に採用され拡大してきた。国内ではチョコレート向け製品の最盛期は2月だが、さらに自分向けに購入するケースが増加。このため、チョコレート数個が入る小箱の要望が高まっていたが、コストや納期の問題で手がけてこなかった。

小型貼箱を強みに

貼箱はボール紙で作られた「生地」と呼ばれる箱の筐体に、デザインが施された外装の「貼紙」を糊で貼り付け、包み込んで作られる。同社の機械設備で量産できる貼箱の

最小サイズは、長さ100ミリ×幅60ミリ×高さ20ミリメートルだった。一方、顧客からはこれより小型のサイズを要求されていた。既存機械が活用できないサイズの貼箱は手作業で対応するしかない。しかし、量産できないためコスト高になり採算割れとなる。このため、依頼があっても断らざるを得なかった。

こうした状況で、貼箱製造機械のメーカーが従来よりも小型向けの機械を開発したという情報を得た。そこで、開発された小型用機械をベースに、自社向けに改良しようと「平成28年度補正革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」を活用。水谷豊社長は「製品の

運送費が上昇する状況で、小型の貼箱を強みにすることは重要」と指摘する。貼箱の完成品は容積がかさむため、コンテナやトラックの荷台にどれだけの数量を積み込めるかが収益を左右するからだ。

機械化で1時間1000個製造

自社向けの貼箱製造機械が完成し、最小寸法で長さ50ミリ×幅30ミリ×高さ12ミリメートルの貼箱製造が可能となった。従来の約2分1のサイズのような小型貼箱は手作業では1時間に100個程度しか製造できなかったが、機械化で同1000個が可能となった。水谷太紀設備担当は「セッティング時間が大幅に短縮で

きた」と作業時間も軽減。コストアップ要因も排除でき、価格競争力が上がった。

こうした効果は、繁忙期に注文が重なって入った際でも、作業ミスによる不良率の低減にもつながる。繁忙期は手作業による貼紙のズレや糊による汚れが原因の不良率は約2%程度あった。一方、機械メーカーのテストでは1万個製造しても不良品ゼロを記録しており、大幅な改善も期待できる。

箸や扇など小物向けに

小型貼箱製造機械の導入効果は価格競争力や作業環境改善だけではない。同社の主力製品はトムソン

箱で、型抜きされた部材を折り込んで箱に成形するもの。薄型になると組み立てにくく、補強材などが必要となるケースがある。導入機は高さ12ミリメートルの薄型の貼箱が製造できるため、こうしたケースの解決策として顧客に提案することも可能になる。機能面に加え、デザイン面でも長細いデザインの箱も製造できるようになったため、箸や扇子向けといった菓子とは別の市場を開拓する武器にもなる。

水谷社長は「中国での生産も検討したが、納期、コスト、品質面いずれも納得できなかった」と振り返る。国内生産にこだわり、自国経済に貢献していく考え。